

図書館新聞

vol.26

活動記録、おすすめ本紹介、4年生振り返り、編集後記



活動記録

～令和4年度～



選書

6月と11月の2回にわたり、毎年恒例の選書を行いました。メンバーそれぞれが今井書店へ出向き、図書館に入れたい本を選びました。幅広いジャンルの本が新たに加わり、図書館の蔵書がより豊かになったように思います。自作のPOPと共に、学生図書委員選書本の棚に展示しました。

紅白図書合戦

12月には紅白歌合戦ならぬ「紅白図書合戦」(企画展示)を実施しました。紅と白の2チームにわかれ、それぞれが選んだ"今一番おすすめの本"で競い合いました。最も読みたくなった本のあるチームへ利用者の方々に投票してもらった結果、77対83票で白チームの優勝でした！予想以上に多くの方々が投票に参加してくださり、とても良い企画になりました。



ビブリオバトル

ビブリオバトルはバトラーといわれる人が自分のおすすめの本、好きな本を5分間で紹介します。そして、それぞれ発表と質疑応答の後、1番読みたくなった本・チャンプ本を選びます。

第1回学内予選を7/20(水)、第2回学内予選を10/26(水)に行い、予選で選ばれたチャンプ本を紹介した人と、同じく予選でチャンプ本に選ばれた浜田キャンパスの人と合同で11/12(土)に決勝戦を行いました。

5分間は長いようで短く、短いようで長いです。バトラーはそんな時間内で本の要点と好きという気持ちを込めた紹介をされていて、どれも読みたくなるような魅力的なものでした。また、私もバトラーとして参加し、好きな本と向き合い直すきっかけになりました。



地区決戦 11月



予選2回目 10月



予選1回目 7月

おはなしマラソン・おはなしクイズ

おはなしマラソンとおはなしクイズは、おはなしレストランに来館した方を対象に行いました。

おはなしマラソンは、参加者にPOP用紙を渡して読んだ本について書いてもらい、完成したPOPが10枚になった方に、記念のメダルをプレゼントしました。

おはなしクイズは、参加者に本にまつわるクイズを解いてもらい、全問正解者には菓をプレゼントしました。この企画は、昨年度コロナの関係で準備が終わった段階で中止となっていたので、今年は昨年作ってもらっていたクイズを引き継いで行いました。おはなしクイズと並行して、係のメンバーがPOPを作って、おすすめの絵本・児童書紹介も行いました。どのPOPも見ていて楽しいものに仕上がりに、来館者に好評でした！

商業高校交流会

1 回目は商業高校の方に来ていただき、アイスブレイクとして請求番号ゲームをしたり、お話しレストランや県立大学の図書館の案内をしたり、題名入れ替えゲームをしたりしました。高校生との親睦を深めるとともに、県立大学の施設についてより知ってもらうことができました。請求番号ゲームは本を集めることと計算を時間内に同時並行で行う必要があったため、ハラハラとした緊張感で盛り上がることができました。

2 回目は商業高校にお邪魔させていただき、キーワードが入った本を見つけるゲームや表紙を見て内容を予想するゲームの2つを行いました。



大学祭

今年は10月9日、10日の2日間で大学祭を行いました。昨年同様しおり販売を行うと同時に、今回はキラキラドリームプロジェクトの活動である「図書館祭り」も行いました。しおり販売では、しおりのデザインや付録の内容がまばらな為、多くの人が自分の好きなものを楽しそうに選んでいました。

図書館祭りでは、釣ったヨーヨーに書かれた請求記号の本を探してきてもらうヨーヨー釣りなど、楽しいだけでなく、図書館に関する学びを得られる活動を行うことができました。

大学祭を通して、図書館を普段使わない人も本や本に関する事に触れる良い機会だったと思います。また、お客さんだけでなく、運営側も楽しむことができたので良かったです。



おすすめ本紹介

テーマ：時間・時計に関する本

『時計づくりのジョニー』 著者:エドワード・アーディゾーニ 出版社:こぐま社 1998年
ジョニーはとても手先が器用な男の子である日、本で見た大時計を作ってみようと奮起します。ですが、お父さんもお母さんも学校の先生も友達もみんな「小さいジョニーに時計なんて作れるはずがない！」とバカにするのです。しかしジョニーはあきらめず大好きな時計作りに没頭します。

さあ、ジョニーは大時計を作れるのでしょうか。好きなことや挑戦したいことをバカにされたらとっても悲しいですね。それでも逆境に立ち向かうジョニーを見てみると自然と彼を応援したくなってきます。絵本を読み終えるころにはきっと何か始めたい気持ち溢れてくるはずです。絵本のイラストもレトロで素敵ですよ。

(地域文化学科 1年 和田沙耶花)

『水の時計』 著者：初野晴 出版者：井上伸一郎 角川書店 2005年

『退出ゲーム』などの作品で知られる初野晴さんのデビュー作です。脳死だと診断されながら、月が出る夜だけ特殊な装置を使って話すことができる少女のお話。ファンタジー要素のあるミステリー小説で、重い話ですがすごく考えさせられる作品です。登場人物それぞれの視点から描かれ、切なく悲しいお話です。

正直あまり時計・時間要素はありませんが、題名に「時計」が入っていたので紹介させていただきました。命の大切さを改めて感じてほしいです。臓器移植など扱っているお話なので、大丈夫な方のみお読みください。

(地域文化学科 1年 梶谷夢羽)

『やさしさを忘れぬうちに』 著者：川口俊和 出版社：角川書店 2023年

2016年に大ヒットを記録した『コーヒーが冷めないうちに』の続編が、今年3月14日に出版されます。今作は続編第5作目となっています。1話完結型の小説ですが、シリーズ内でのつながりもあり、喫茶店員たちの関係も明らかになっていきます。

喫茶「フニクリフニクラ」には、ある噂を聞き付け、たくさんのお客様がやってくる。その噂とは、「過去に戻れる」というものだった。しかし、過去に戻るには多くの条件があり、過去に戻れたとしてもまた、多くの制限があった。そんな中で、登場人物たちは何を見、話し、聞き、思うのか。誰しものが経験するかもしれない後悔をどう受け止めていくか、あなたも考えてみませんか？

(地域文化学科 2年 信重奈音)

『ノッキンオン・ロックドドア2』 著者：青崎有吾 出版社：徳間書店 2019年

インターホンもドアチャイムもノッカーもない探偵事務所、ノッキンオン・ロックドドア。〈不可能〉な謎専門の御殿場倒理（ごてんばとうり）と〈不可解〉な謎専門の片無氷雨（かたなしひさめ）、相棒かつライバルのダブル探偵が難事件に挑む、シリーズ第二弾！

6つの短編が収録されており、そのうちのひとつ「時計にまつわるいくつかの嘘」では、タイトル通り「いくつかの嘘」が交錯する中、一本の腕時計から犯人を導き出すフーダニット。真相を示す手がかりの出し方が秀逸で、一度読んだら思わずもう一度読み返したくなること間違い無しです。時間を忘れて謎解きに没頭してしまうかも…？前作と併せてぜひご一読ください。

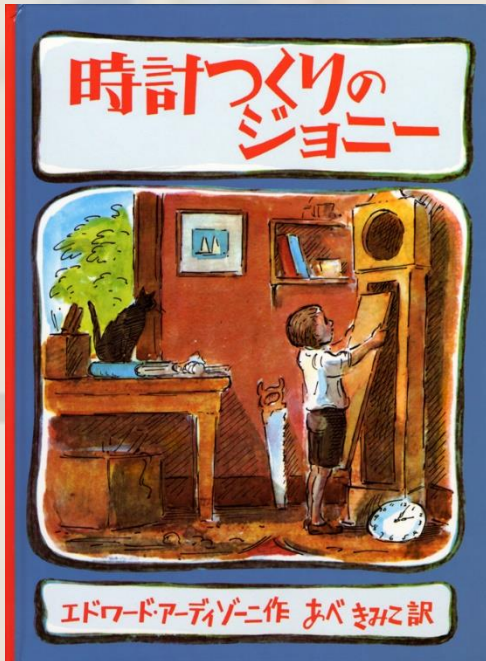
(地域文化学科 3年 福田倫世)

表紙

水の時計

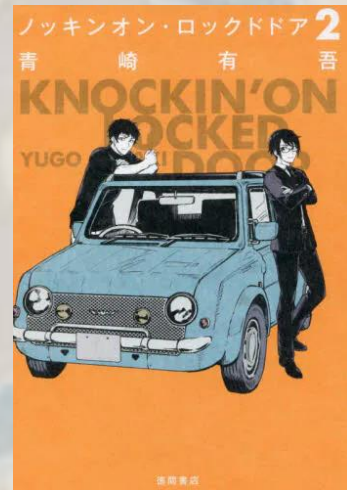


やさしさを忘れぬうちに



時計づくりのジョニー

ノッキンオン・ロックドドア2



● 4年間の活動を振り返って ●

飯塚真美（地域文化学科4年）

好きな本や他学年の学生と触れ合える、楽しい活動でした！コロナ禍で人と交流することが中々出来なかったため、活動がより楽しかったし、大学生活を彩ることが出来たと思います。本を通して人と繋がることの楽しさや嬉しさ、本の魅力を伝える難しさを経験しました。図書委員に入っていたおかげで、良い思い出が作れたので、参加していて本当に良かったです。

伊藤夢希（地域文化学科4年）

図書委員会では、高校生との交流会を行ったり、ビブリオバトルを運営をしたりなどの貴重な活動を行うことが出来ました。また、1年生の時には、文化祭で飲食の売店をしたりなどしてとても楽しかったです。読書をするだけでなく、本や図書館という場を通して、人と人との結びつきを体感することができた活動だったと思います。

植木香帆（地域文化学科4年）

学生図書委員の4年間を通して、同級生や他学年、高校生、司書の方など様々な繋がりを得られました。学生図書委員で活動できたことは、学生生活での楽しい思い出の1つです。ありがとうございました！

奥田尚緒（地域文化学科4年）

高校生との交流会や図書館祭りなど、思い出に残る楽しいイベントに参加できました。多学年とも接点を持つ貴重な機会なので、参加して良かったなと思います。

中村はるか（地域文化学科4年）

活動時期がコロナの流行と重なり、思うように活動出来ないこともありましたが、図書館司書の皆さんやおはレスの司書のお2人などのサポートのおかげで、乗り越えられたかなと思います。ありがとうございました！

長島美月（地域文化学科4年）

飛鳥祭の出し物や地域の高校との交流会など本に関わる様々な活動が出来てとても充実していました。

万代結（地域文化学科4年）

4年間ありがとうございました。選書とPOP製作に携わり、自分の好きな本を紹介できてとても楽しかったです。また商業高校との交流会に2度参加しました。商業生さんとクイズや本の紹介をして、普段とは違う体験ができました。文化祭では1年次に屋台を出したり、昨年は縁日の手伝いができて良い思い出になりました。沢山の経験をさせていただきました。後輩の皆さまがこれからも充実した活動ができるように応援しています。

村上翔太（地域文化学科4年）

最初はそこそこで活動するつもりでしたが、気付けばいろんなことを体験させていただきました。沢山の人の関わり、そして沢山の思い出をいただきました。皆さんのおかげです。本当にお世話になりました。

森尾香月（地域文化学科4年）

印象に残っているのは、島根大学での交流会と図書館祭です。どちらもたくさんの人と関わって意見を出し合い、作り上げていくイベントだったと思います。この他にも本に関わる様々な体験をできた楽しい4年間でした。ありがとうございました！

ご卒業おめでとうございます



編集後記

地域文化学科 3年 福田

なかなか時間が設けられず急ピッチでの刊行になりましたが、素敵な新聞となり一安心です。

今回は表紙を担当させていただきました。目に留まるようなものができたでしょうか…？お手に取ってくださった皆さんの中で、「表紙に惹かれて」という方がいらっしやったら嬉しい限りです。

また、おすすめ本コーナーでも一冊本を紹介しておりますので、良かったらご覧ください。私も他の新聞係メンバーが選んだ本を読んでみるのが楽しみです！

地域文化学科 1年 梶谷

初めて図書館新聞の制作に携わり、いままで学生生活でこのような機会はなかったため、貴重な経験ができてよかったです。おすすめの本を紹介するにあたって本を読みました。ちゃんと小説を読むことって、大学生になってほとんどしてこなかったなと感じました。読んでみると、楽しくて止まらなくなりました。隙間時間や長期休暇の日にでも本に触れる時間を作ろうと思いました。

地域文化学科 1年 和田

おすすめ本の紹介をするにあたって久しぶりに図書館の絵本コーナーを見に行きました。普段読むことのないジャンルの棚はどこを見ても新鮮でワクワクします。大学生になってから本を読む時間が減ってきたので今年はいろいろなジャンルの本を読めるように意識していきたいと思います。他の新聞係メンバーのおすすめ本を見るのも楽しみです。

地域文化学科二年 信重

新聞を作るのは中学生以降ではやったことがなくレイアウトなど迷いましたが、前年度のものなどを読み、あまり形式にとらわれず作成できて楽しかったです。今年は商業高校との交流会や本の福袋以外にも図書館祭というビッグイベントもあり、充実した内容の新聞になったと思います。本を読破したのは久しぶりで、読み終わった後の走り切ったような寂しいような感情をもっと大切にしようと思いました。

